

こころのわが家^や

■ 楽曲データ

歌詞：長田恒雄 作詞

楽曲：古賀政男 作曲

発表：大谷楽苑

初演：—

初出：『讃仰歌』 大谷楽苑 1960年

管理番号：M1113

■ 創作の経緯

大谷楽苑による「讃仰歌」第21番として発表。比較資料1に「昭和29年7月」との記載があり、同年の作曲と推測できる。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第4巻収録

底資料：『讃仰歌』 大谷楽苑 1960年

比較資料：弟子による筆写浄書譜

校訂の詳細：特になし

■ 解説

「古賀メロディー」といえば、ある世代以上の方には大変懐かしい響きがすることでしょう。戦前戦後を通じて、その情感あふれる節回しは、日本のあちこちで人々の心を揺さぶってやみませんでした。今なお、当時の思い出を偲ぶ便（よすが）に、かつて親しんだ歌のワンプレーズを口ずさむ方は決して少なくないでしょう。

《こころのわが家》は、この「古賀メロディー」を生んだ作曲家・古賀政男（1904～1978）による仏教讃歌です。作詞は、詩人の長田恒雄（1902～1977）で、大谷楽苑（真宗大谷派）から「讃仰歌21番」として発表されました。作品全体を覆う静謐さと、穏やかな明るさは、数ある仏教讃歌の中でも比類なく、しみじみとした余韻がいつまでも心に残る名曲です。

◆ 歌詞の内容について

若葉のみずみずしさに「み親（阿弥陀仏）の慈光」を感じ、深い安堵とともに「み寺ぞ こころのわが家」とつぶやく、ひとりの篤い信仰心が、奥ゆかしい言葉で綴られていきます。その美しい描写に読み手は引き込まれますが、詩の境地を本当に理解するには、相応の人生経験が必要とされるように思います。

その意味では、年齢を重ねることにより味わい深く、また身に馴染んでいく詩だといえるのではないのでしょうか。

◆歌い方のヒント

歌詞にのせる個々の感情をうまくコントロールして、思いのすべてが、最後の一行に表現として集約されるようにしましょう。感嘆の「ああ」には、歳月の重みがかかっています。「あ～あ」と間延びしないよう、十分に注意して練習してください。

時に（17小節目など）、リズムや音程を揺らした歌い方も可能ですが、気分が流されすぎると、深みがなくなってしまいます。少し抑えた表現を心がけるとよいでしょう。

解説執筆：石川紀久子（和歌山教区和歌山西組西往寺門徒）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第227号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.